

「日々の理科」(第2111号) 2020,-4,20

## 「カノープスの観測地(5)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

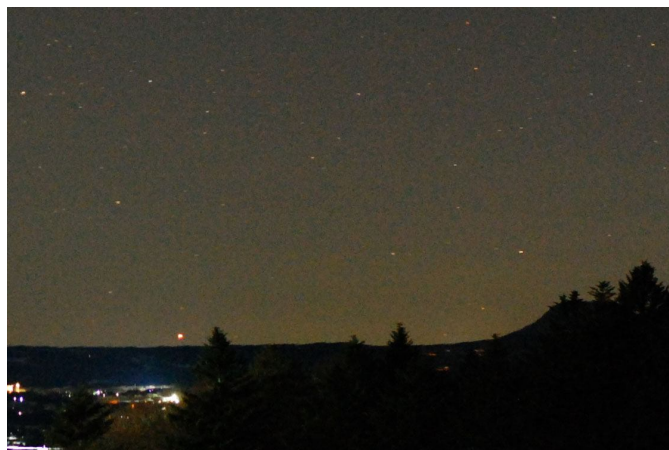
通常、天体写真を撮影する場合、本番の撮影前に明るいうちに現地を見ておくことが多い。しかし今回はロケーションに自信があったので、いきなり深夜に現地に行くことにした。



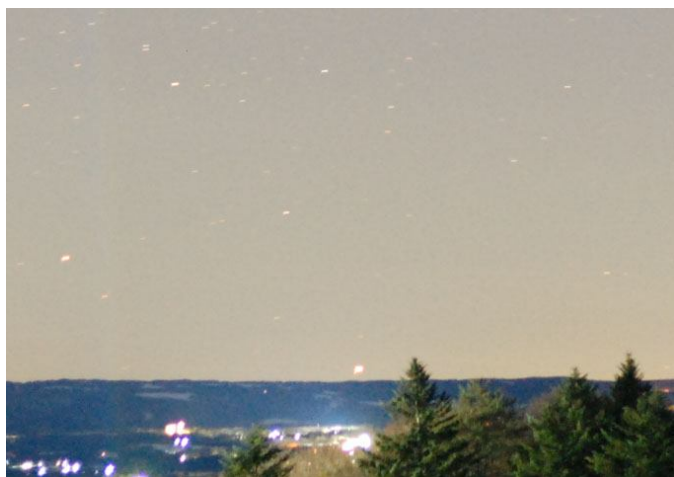
地理院の「地形図」や「グーグルマップ」で、事前に念入りに調べておいたので、全く迷うことなく観測地に到着できた。1月で道に少し雪があったものの、路肩が駐車帯になっていて、これなら安全に観測ができる。そもそもこの県道は、夜間はほとんど車が通らない。



深夜の0時前、狙った通り浅間山(写真右端)の左側(東側)鞍部に、カノープスが現れた。地平線付近は軽井沢の灯火で少し明るくなっているが、小諸の観測地と比較するとはるかに暗い。上の写真には、シリウス(上端の輝星)からカノープスまで写っている。



確かに地平線よりも上にある。この赤さからしても位置的にも明るさも、カノープスに間違いはない。本来は白い恒星なのだが、「夕日が赤い」と同じで、地平高度が低い天体は、赤く見えるのだ。



露光時間を長くして、「カノープスの日周運動」も撮影してみた。他の恒星と同様、左(東)から右(西)に動いていることがわかる。



最後に「車でいける場所でカノープスの観測が可能」という証拠写真を撮ってみた。こういう場所を、もう2~3か所見つけてみたいと思っている。